Compass2016 羅針盤
2016.12.16(金)
No. 26
室蘭市小学校
外国語活動
巡回指導教諭
海陽小 相馬和俊

−こんな質問・疑問って，あり？・・・それ，“スッキリ”させましょう！Part2−

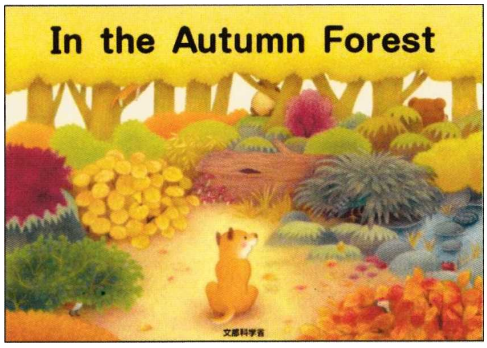
前号では，目標（現行の外国語活動）と教室英語について述べました。
今号では，指導者および研修の問題，そして新たな教科・外国語活動のための環境整備（教材）について整理してみたいと思います。

Q３：教科になったら誰が教える？その研修は？

まず，全国約20,000の公立小学校に一斉に小学校英語専科教諭が配置になることは現実的には考えられませんので，指導者に関しては，今後もおそらく基本は「学級担任による指導」ということになると思います。
その上で，「あとは各自治体による違い」となるでしょう。
さて，室蘭市です。本市には現在，3名のALT（外国語指導助手）と2名の英語講師の先生がいます。
今後さらに予算措置・加配措置が講じられ，学級担任のサポート体制が整っていくことが期待されます。
「それなら今と何も変わらないじゃないか！」と言われそうですが，教科化に向けた様々な指導者・指導力に関わる条件整備は，国・道・市レベルでそれなりに進められているのも事実です。
指導者および指導力向上のためのサポート（検討中を含む）としては，以下のようなものがあります。
①専科教諭の配置（「全国一律は難しいものの，数年先に一定程度の加配措置があるのでは」と私は思っています。）
②ALT・英語講師の活用（「特別免許状」の交付により，正式に学級担任に代わって指導することが検討されています。）
③全国共通の研修の実施（「グローバル化に対応した英語教育指導力向上研修」。胆振管内の小学校は今年度から。）
④北海道の研修の実施（「小学校外国語活動巡回指導研修事業」。室蘭市を含む道内７市で，今年度から。あとは，北海道立教育研究所の研修講座。小学校教員向けの講座もあり。）
⑤室蘭市の研修の実施（室蘭市教育研究所の研修講座。今年度は1月10日に実施。）
⑥北海道教育大学による研修の実施（小学校外国語活動小中連携フォーラム。あさって札幌で実施。あとは，小学校教員向けに，「英語2種免許」取得を促す研修講座の実施。次年度から2ヵ年限定。）

Q４：新たな教科・外国語活動のための環境整備（教材）は？

まず確認です，平成32年度の次期学習指導要領全面実施を前に，平成30・31年度が移行措置期間となります。
ここで問題となるのは，５・6年生の教科英語をやるにしても，３・4年生の外国語活動をやるにしても，教科書はもちろんありません，３・4年生向けの主教材（現行のHi, friends! のようなもの）もないということです。
そこで，この期間にきちんと先行実施を行い全面実施に向けた準備ができるよう，文科省で3〜6年の教材を開発し，配布される見込みです。このことに関する委員会も立ち上げられたそうです。
おそらく全面実施にスムーズに移行できるよう，内容的にはほぼ近いものが出てくるのではないかと思います。
５・6年生では，中学1年生の教科書の前半部分を140時間切り取ってくるわけではなく，現在「外国語活動」として行っているような内容に，アルファベットの文字や音への気付きを促す，英語の文構造に気付かせる，そうしたものが中学校への系統性を伴って入ってくることになるでしょう。
また3・4年生では，現在の5・6年生外国語活動で行っている内容の一部が，より体験的な活動となって入ってきたり，以前お伝えしたように「絵本」の活用が見込まれるでしょう。（Compass No16 参照）



In the Autumn Forest（3年生教材）

～秋の森でかくれんぼ・子犬が仲間を探します～

1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10.　Ready or not, here I come !
I see something white.　Are you a …?
Oh, my ears !　Yes, I am.　I'm a rabbit.
I see something black.　Are you a …?
Oh, my eyes !　Yes, I am.　I'm a monkey.
I see something big.　Are you a …?
Oh, my head !　Yes, I am.　I'm a bear.

まだまだ仲間さがしは続きます。次は，どんな動物が出てくると思いますか？